

2015 年度

第 4 回 高知県建築文化賞
事業実施報告書

2016 年 1 月

高知県建築文化賞実行委員会

【目次】

1. はじめに	1
2. 第4回高知県建築文化賞の概要	
2.1 第4回高知県建築文化賞のスケジュール	2
(1) 審査等スケジュール	
1) 県民審査及び結果発表	
2) 予備審査	
3) 一次審査（公開）	
4) 二次審査（選考委員による現地審査を含む）	
5) 最終結果発表	
(2) 表彰式・記念講演会・授賞作品展	
1) 表彰式	
2) 記念講演会	
3) 懇親会	
4) 授賞作品展	
2.2 賞の種類	
2.3 選考委員会の設置	
2.4 応募事項等	
1) 応募資格・応募対象・応募件数	
2) 応募料	
3) 応募期間	
4) 応募書類	
5) 提出先	
2.5 著作権等	
2.6 主催・協賛・後援団体	
(1) 主催	
(2) 協賛	
(3) 後援	
3. 応募状況とその特徴	7
3.1 応募数・提出数別	
3.2 用途別	
3.3 構造別	
3.4 地域別	

4. 審査の方法と結果	11
4.1 審査の方法等	
(1) 選考の視点	
(2) 選考の方法	
4.2 県民審査の状況と結果	
(1) 県民審査の状況	
(2) 県民審査の来場者数	
(3) 選考の方法	
(4) 県民審査の結果	
4.3 予備審査の状況と結果	
4.4 一次審査の状況と結果	
(1) 一次審査の状況	
(2) 一次審査の来場者数	
(3) 一次審査の結果	
4.5 二次審査の状況と結果	
(1) 二次審査の状況	
(2) 二次審査の結果	
5. 審査の講評	19
5.1 審査委員長 布野修司（建築批評家・日本大学特任教授）	
5.2 審査委員 高橋晶子（建築家・武蔵野美術大学教授）	
5.3 審査委員 渡辺菊真（建築家・高知工科大学准教授）	
6. 授賞式・記念講演会・授賞作品展の状況	22
6.1 授賞式の状況	
6.2 記念講演会の状況	
6.3 授賞作品展の状況	
7. 高知県建築文化賞の予算及び決算	24
7.1 予算	
7.2 決算	

1. はじめに

(1) 高知県建築文化賞の特徴

高知県建築文化賞の主な特徴は、以下のとおりである。

◎高知県内唯一の総合的・専門的な建築作品賞

対象は、高知県内に竣工した建築作品で、社会的、文化的見地から極めて高い水準が認められる優れた作品を対象とし、最優秀作品には高知県知事賞が贈られる。

◎個性的で多様な賞

高知県知事賞以外にも、木造文化賞、土佐薨（いらか）賞、優秀賞を設けている。

◎若い建築家にチャンス

前回（第3回）から40歳以下の設計者・施工者を顕彰する新人賞を設けた。

◎県民審査賞を創設

また、今回（第4回）から新たに県民審査賞を設けた。

◎誰でも自由に応募

応募は、建築主・設計者・施工者であれば、誰でも自由に参加できる。

◎審査は公開され、誰もが審査員

審査は、①県民審査、②予備審査、③一次審査、④二次審査の4段階で行う。県民審査は、県民審査会場に応募作品を展示し、一般入場者の投票により審査する。予備審査は、県民審査の結果と中立的に組織した審査委員会が一次審査対象作品を選出する。一次審査は、公開で行う。予備審査を通過した作品を提出者がプレゼンテーションを行い、審査員が審査する。また、二次審査では、審査委員会が現地審査を行い、最終的に各賞を決定する。

(2) 第4回 高知県建築文化賞としての開催

表1のように高知県建築文化賞は、2015年度、第4回として開催された。

表1. 高知県建築文化賞の開催経過

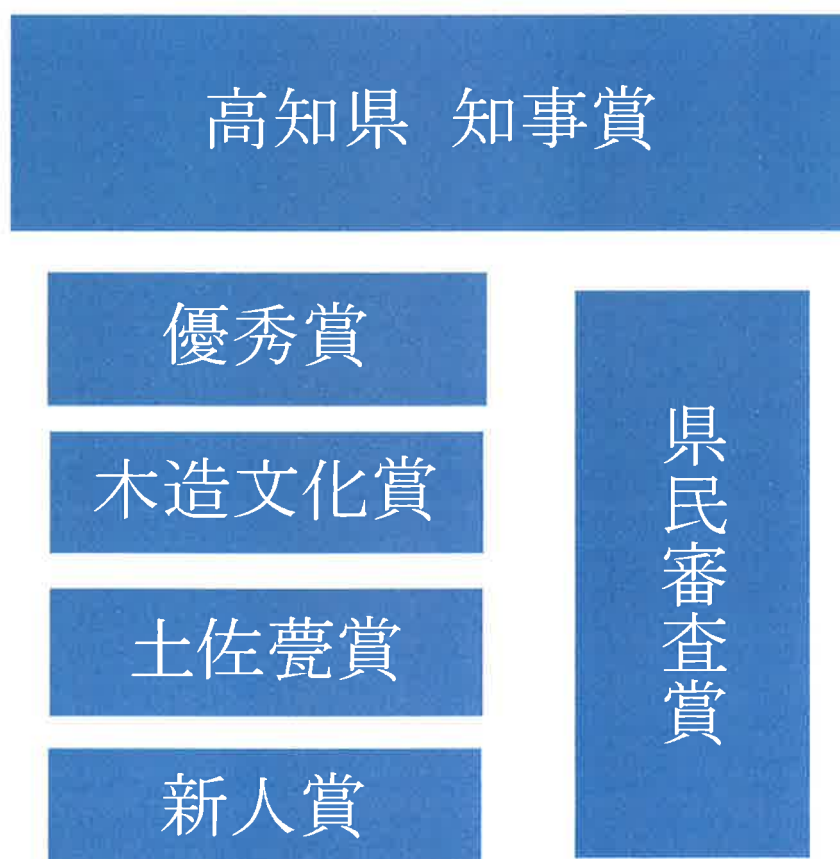
年度	回	建築作品賞
2006年度	1	高知県建築設計監理協会建築作品賞
2007年度	2	高知県建築設計監理協会建築作品賞
2008年度	3	高知県建築設計監理協会建築作品賞
2009年度	1	高知県建築文化賞
2010年度	2	高知県建築文化賞
2011年度		中止
2012年度		中止
2013年度	3	高知県建築文化賞（再開）
2015年度	4	高知県建築文化賞

2.2 賞の種類

建築主・設計者・施工者（土佐薨賞の場合は瓦施工者）の各々に表彰状を授与。

- ◎高知県知事賞（最優秀賞）×1点……………賞状、記念品
（高知県の建築文化に貢献した最も優れた作品）
 - ◎優秀賞×1～3点……………賞状、記念品
（上記、最優秀賞には選出されなかったが、高知県の建築文化に貢献した優れた作品）
 - ◎木造文化賞×1点……………賞状、記念品
（木造建築物で高知県の建築文化に貢献した最も優れた作品）
 - ◎土佐薨（いらか）賞×1点……………賞状、記念品
（国内産の粘土瓦を屋根等に使用し、高知県の建築文化に貢献した優れた作品）
 - ◎新人賞×1点……………賞状、記念品
（40歳以下の設計者・施工者が設計・施工し、高知県の建築文化に貢献した優れた作品）
 - ◎県民審査賞×1点……………賞状、記念品
（県民審査によって1位に選出された作品）
- *重複受賞あり（高知県知事賞で木造文化賞、高知県知事賞で新人賞、木造文化賞で土佐薨（いらか）賞、木造文化賞で県民審査賞、等々）

図1. 賞の種類



2.3 審査委員会の設置

審査は、審査委員会を組織し、審査委員は、建築家等数名とし、そのうち1名を委員長とする。
2015年度の審査委員は表3のとおり。

表3. 選考委員会（選考委員長・選考委員）

委員長	布野 修司	建築批評家・日本大学特任教授
委員	高橋 晶子	建築家・武蔵野美術大学教授
委員	渡辺 菊眞	建築家・高知工科大学准教授

2.4 応募要項等

(1) 応募資格・応募対象・応募件数

対象建築物の建築主・設計者・施工者であれば誰でも応募が可能。また、応募対象は、2012年9月1日から2015年8月31日までに竣工した建築作品（過去3年間とする）で、建築場所が高知県内であることとし、建築規模・用途は問わない。応募件数は、複数点の応募が可能（制限なし）。

また、新人賞対象者は、設計者が応募終了時（2015年9月15日）において40歳以下であることとする。

(2) 応募料

無料。

(3) 応募期間

2015年9月7日（月）～9月15日（火）15:00まで（必着のこと）

(4) 応募書類

応募書類は、県民審査、予備審査用として、以下の3点を応募期日までに本実行委員会に提出する。

- 1) 「建築作品応募申込書」は、日本建築学会四国支部のホームページバナー〈高知県建築文化賞〉からダウンロードのこと。
- 2) A3判（ヨコ仕様）5mm厚のスチレン又はCPボード×1枚に、設計主旨・図面・写真等の内容を適宜まとめて記載のこと。ただし、提出者が特定できる記載（氏名、所属等）は入れてはならない（これらが記載されている場合は、失格とする）。
- 3) 完了検査済証の写し、または、それに準ずるものを添付のこと。

(5) 提出先

応募書類の提出先は、下記のとおり。

〒782-0003 高知県香美市土佐山田町宮ノ口 185 ☎0887-57-2363

高知工科大学地域連携棟 201 NPO法人 高知まちづくり支援ネットワーク内

高知県建築文化賞実行委員会

メールアドレス shiennet@kochi-tech.ac.jp

2.5 著作権等

- (1) 雑誌等に掲載する場合は、著作権は応募者に帰属し、本実行委員会は編集出版権をもつ。
- (2) 複写権、翻訳権を本実行委員会に委託するものとする。
- (3) 受賞作品を共催団体運営のホームページにて公開できる。
- (4) 著作権の侵害等の問題は、応募者がすべて責任を負う。
- (5) 応募書類の返却はしない。
- (6) 著作権・工業所有権を侵害すると判断されたものは、選考対象から除外する。

2.6 主催・協賛・後援団体

第4回高知県建築文化賞は実行委員会（5団体）を主催とし、協賛が4団体、後援を以下の団体として予定している。

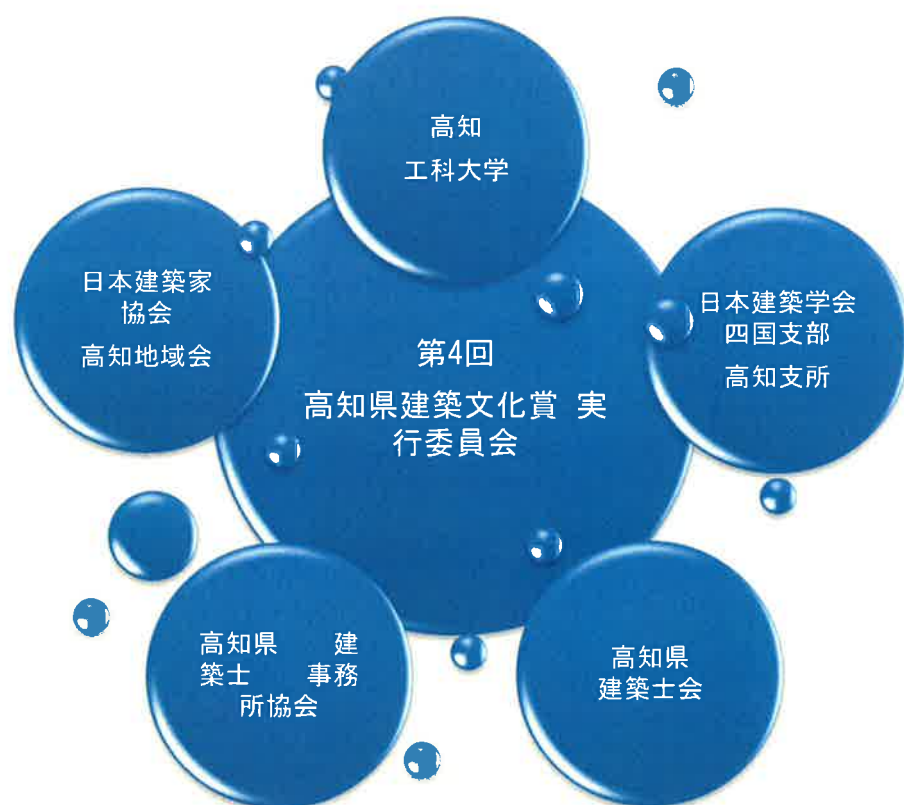
- (1) **主 催**／高知県建築文化賞実行委員会（高知県公立大学法人 高知工科大学、一般社団法人 日本建築学会四国支部高知支所、公益社団法人 高知県建築士会、一般社団法人 高知県建築士事務所協会、公益社団法人 日本建築家協会高知地域会）
- (2) **協 賛**／愛知県陶器瓦工業組合、淡路瓦工業組合、石州瓦工業組合、高知県瓦工事業組合
- (3) **後 援**／高知県、高知県教育委員会、高知市、高知市教育委員会、（社）高知県建設業協会建築部会、高知新聞社、NHK 高知放送局、RKC 高知放送、KUTV テレビ高知、KSS さんさんテレビ、エフエム高知、（株）建通新聞社高知支局、高知工業高等専門学校、国際デザイン・ビューティカレッジ、森の情報館・エコアス馬路村、木と人・出会い館、土佐派の家ネットワークス、認定 NPO 法人高知こどもの図書館、NPO 法人高知まちづくり支援ネットワーク

2.7 2015 年度高知県建築文化賞実行委員会の委員

2015 年度高知県建築文化賞実行委員会の委員の構成は、下記のとおり。2015～2016 年度の実行委員会の委員長は、西森敬祐氏となった。

	氏 名	所 属
委員長	西森 敬祐	高知県建築士事務所協会 会長
委 員	依光 成元	高知県建築士会 会長
委 員	徳弘 忠純	日本建築家協会高知地域会
委 員	田島 昌樹	高知工科大学システム工学群社会教室 代表
委 員	益井 博史	日本建築学会四国支部高知支所 支所長

図 2. 第 4 回高知県建築文化賞 実行委員会



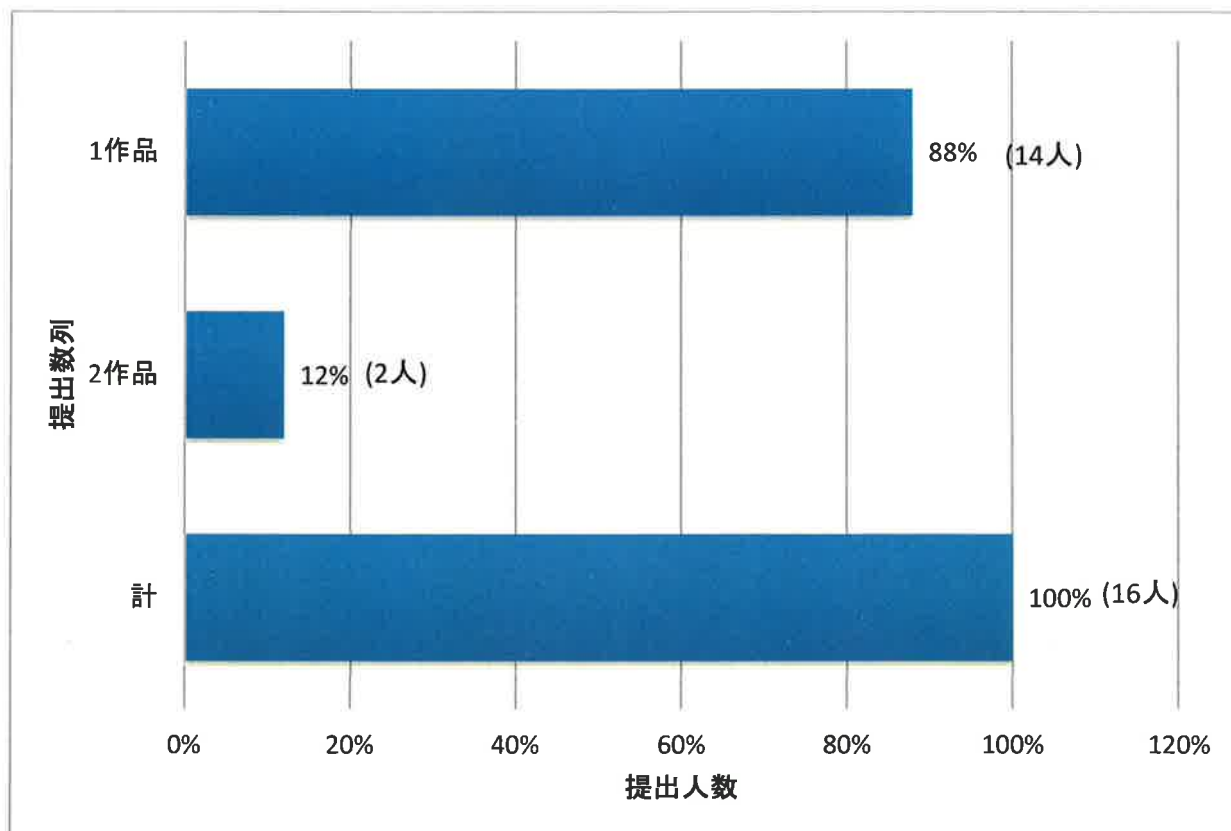
3. 応募状況とその特徴

3.1 応募数・提出数別

- ・全 18 作品の応募があった。
- ・応募者は 16 人であった。
- ・応募者の 88% (14 人) が提出数 1 作品であった。
- ・応募者の 12% (2 人) が提出数 2 作品であった。

(図 3 参照)

図 3. 応募作品 提出数別

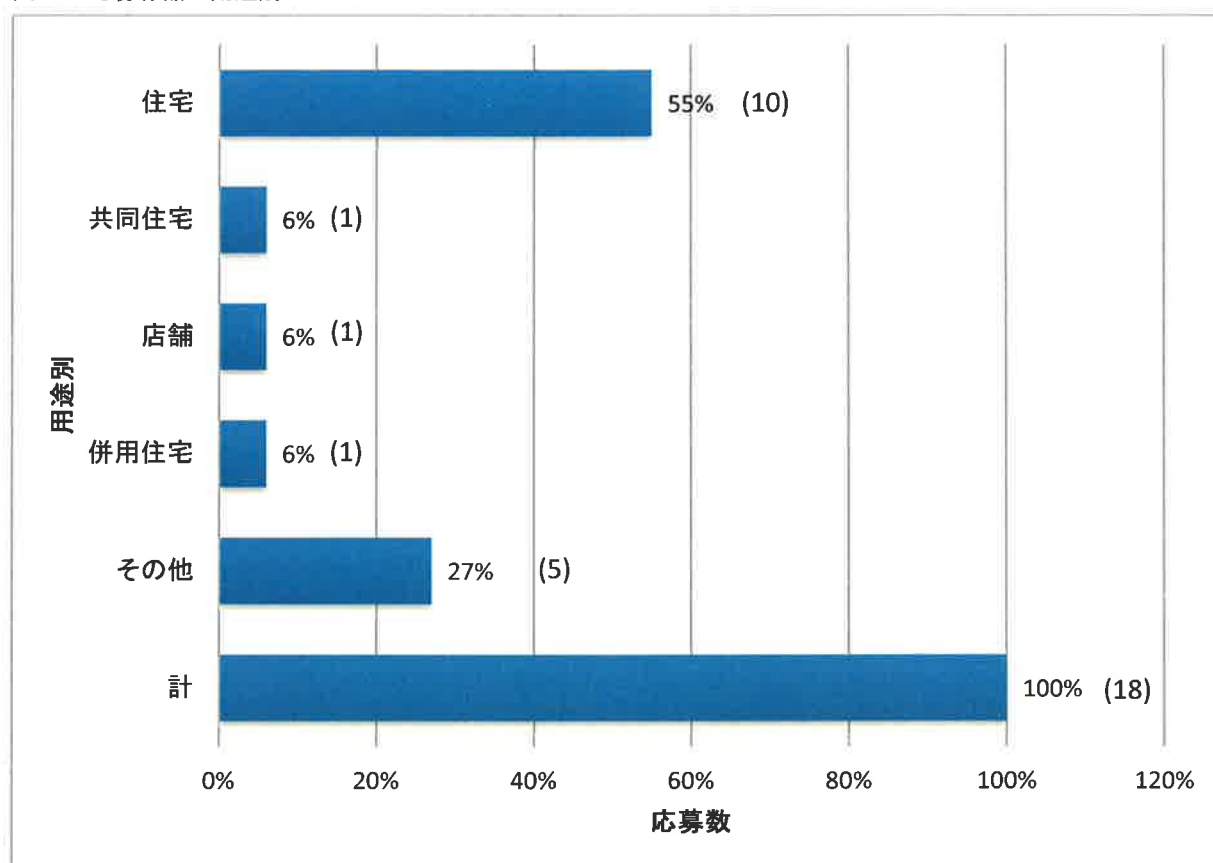


3.2 用途別

- ・住宅の応募数が 55% (10 作品) と最も多かった。
- ・住宅関係（住宅・共同住宅・併用住宅）の応募数は 67% と過半数を占めた。
- ・店舗の応募数は、経済状況を反映したためか 1 作品にとどまった。

(図 4 参照)

図 4. 応募作品 用途別

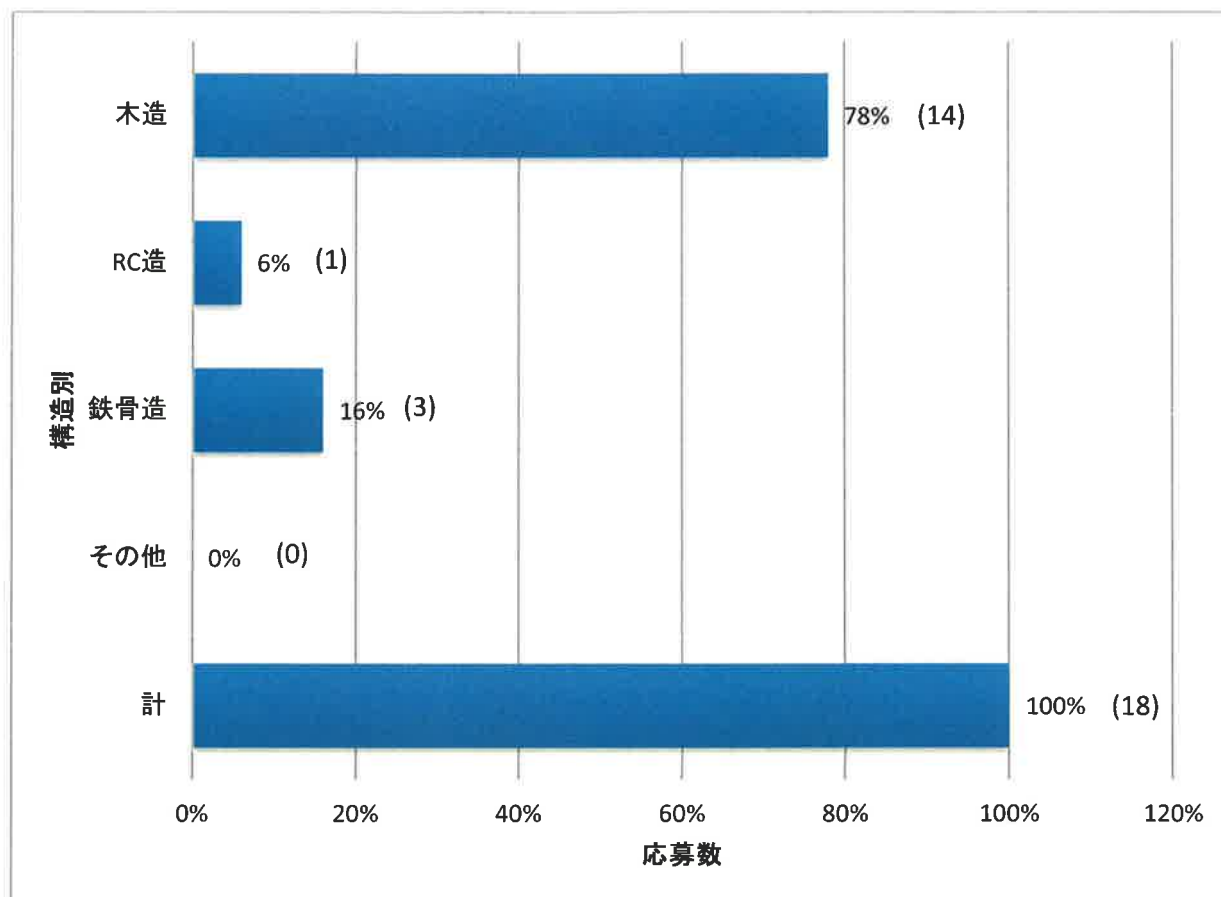


3.3 構造別

- ・木造建築の応募数が日本の建築状況を反映して、78%（14 作品）と大半を占めた。

（図 5 参照）

図 5. 応募作品 構造別



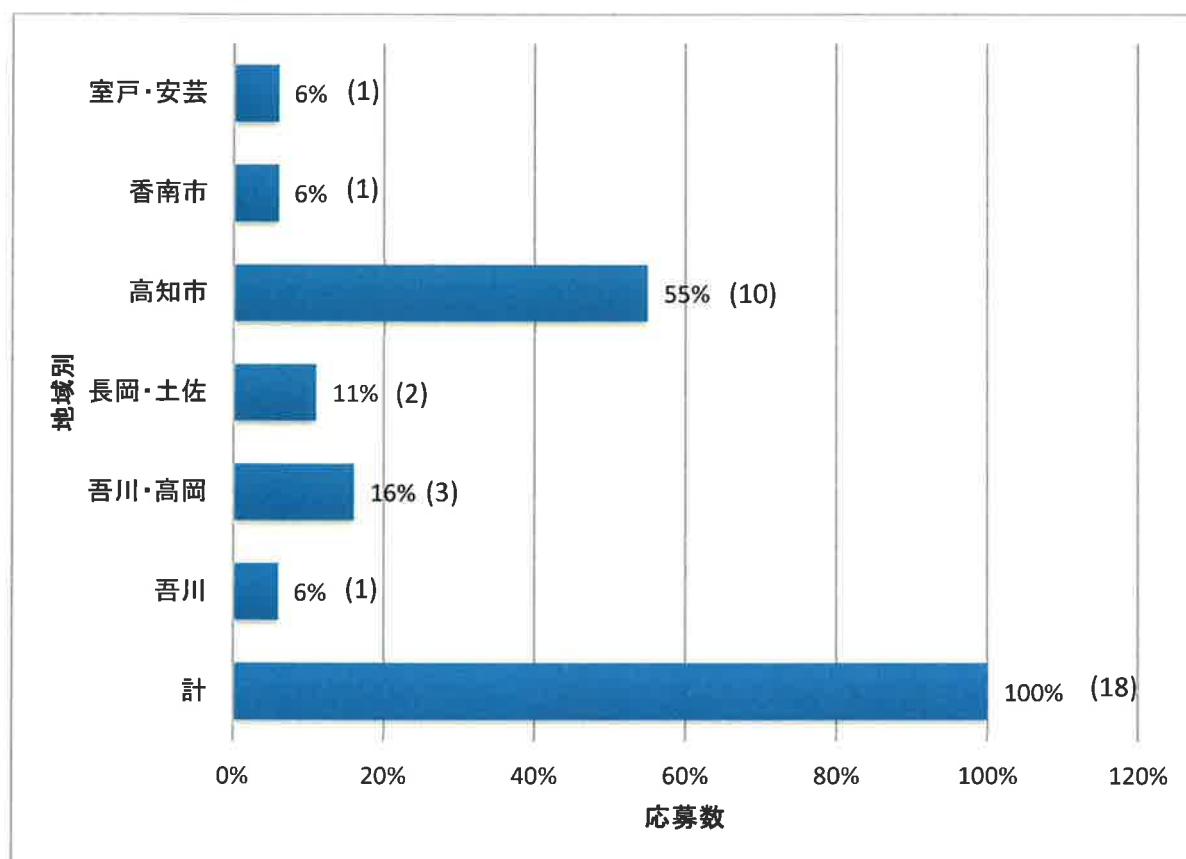
3.4 地域別

- ・高知市の応募数が人口を反映して、55%（10 作品）と最も多くを占めた。
- ・高知市、香美市以外の地域でも応募数が増加することが、今後の「高知県建築文化賞」の発展につながる。（図 7 参照）

図 6. 第 4 回高知県建築文化賞位置図



図 7. 応募作品 地域別



4. 審査の方法・状況と結果

4.1 審査の方法等

(1) 審査の視点

高知県建築文化賞は、下記の諸点において高い水準をもつ作品に送られる。特に、(1)を重視する。そのウエイトは、概ね下記のとおりである。

- 1) 高知の社会性、歴史性、文化性から見た地域環境への適合性 (40 点)
- 2) 新たな建築の可能性を示唆するもの (20 点)
- 3) 地球環境保全に対する配慮および建築物のライフサイクルに対する取り組み (20 点)
- 4) 外部空間、内部空間の両面における独創的なデザイン性 (10 点)
- 5) 計画、構造、環境・設備および材料・工法技術に関する設計の論理性 (10 点)

(2) 審査の方法

審査は、1) 県民審査、2) 予備審査、3) 一次審査、4) 二次審査の4段階にて行う。

- 1) 県民審査は、審査会場に応募作品（提出されたパネル）が展示され、一般入場者の一人一人が良いと思われる作品を1位から3位まで順位を付けて投票する。1位には3点、2位には2点、3位には1点のウエイト付けがなされ、総得点の多かった1位から3位までの作品は、一次審査対象作品となる。また、1位となった作品には、県民審査賞を授与される。
- 2) 予備審査は、提出された全作品の中から審査員が協議の上、10作品程度（上記の3作品を含む）を選出する。
- 2) 一次審査は、10作品程度の予備審査通過者によるプレゼンテーション（各自5分程度）を公開で実施し、そこから審査委員会が二次審査対象作品を絞り込む。この一次審査過程も公開する。
- 3) 二次審査は、審査委員会による現地審査を含み、公平・厳正な審査を行い、高知県知事賞等の各賞を決定する。

注1：「予備審査」通過者には、予め7～10日前までに連絡しますが、一次審査で行うプレゼンテーション（各自5分程度）用のデータ（Power Point、フォント等に制限あり）の準備が必要。

注2：「一次審査」通過の方は、翌日、審査委員による現地審査を行うので、事前に建築主の了解を得ておくこと（建物内に入る内部審査あり）や広報活動等のため、追加資料の提出が必要となることがある。

図8. 選考の方法



4.2 県民審査の状況と結果

(1) 県民審査の状況

- ・審査の開始 30 分でかなりの人数が訪れていた。
- ・審査の投票締切まで来場者が途切れることはなかった。
- ・来場者は作品を三つに絞ることからか、慎重に複数見回る人がいた。
- ・結果発表時の来場者は会場の椅子を追加するほどだった。（写 1 - 4 参照）

写 1. 作品を見て回る客 (1)



写 3. 投票する様子



写 2. 作品を見て回る客 (2)



写 4. 投票結果 発表

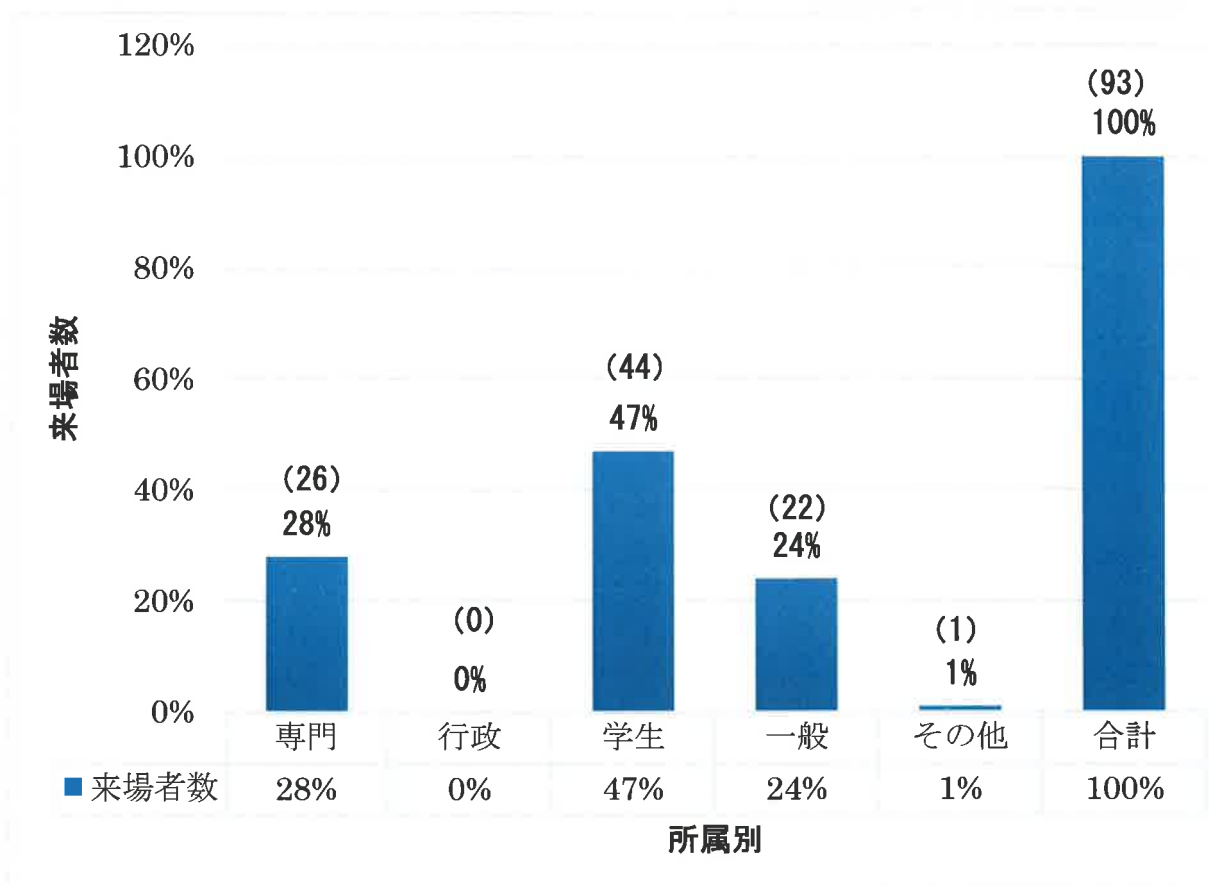


(2) 県民審査の来場者数

- ・来場者数は全 93 名だった。
- ・来場者数は学生の人約 50%とほぼ半分を占めている。学生は高知工科大学で多くを占められた。
- ・来場者数は行政の人が 0%と最も少なかった。

(図 9 参照)

図 9. 県民審査 来場者 所属別



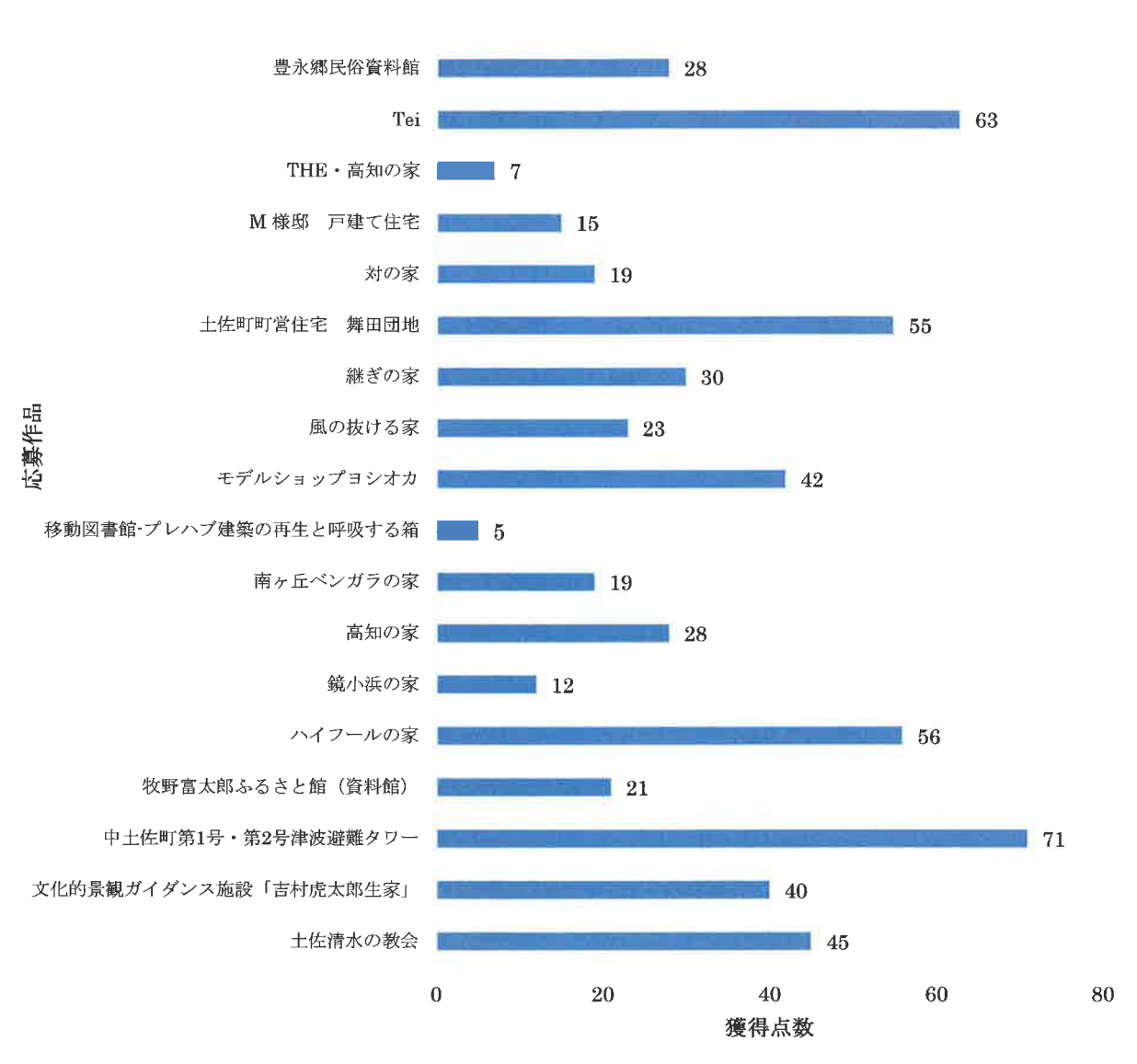
(3) 選考の方法

- ・ 18 作品の中から 1 位～3 位を決め、投票箱に投票する。
- ・ 順位によって、1 位には 3 点、2 位には 2 点、3 位には 1 点の得点として集計する。
- ・ 1 位になった作品には、県民審査賞が授与される。
- ・ 上位 3 作品は、一次審査対象作品となる。

(4) 県民審査の結果

- ・ 投票結果は「中土佐町第 1 号・第 2 号津波避難タワー」が 71 点で 1 位となり、県民審査賞に輝いた。
- ・ 2 位は、「Tei」（63 点）、3 位は、「ハイルーフの家」（56 点）であった。
- ・ この結果、上記 3 作品は、1 次審査対象作品となった。

図 10. 県民審査 投票結果



4.3 予備審査の現状と結果

- ・予備審査は、提出された全作品の中から審査員が協議の上、10 作品程度（県民審査賞上位 3 作品を含む）を選出する。
- ・しかし、今回は、協議の結果、8 作品が選出された。

4.4 一次審査の状況と結果

(1) 一次審査の状況

- ・予備審査を通過した 8 作品の設計者によるプレゼンが行われた。
- ・プレゼンは発表 8 分・質疑 10 分の公開審査で行われた。
- ・会場は満席となった。（写 1 - 4 参照）

写 1. 会場全体の様子 前方



写 3. プレゼン発表 開始



写 2. 会場全体の様子 後方



写 4. プレゼン発表の様子

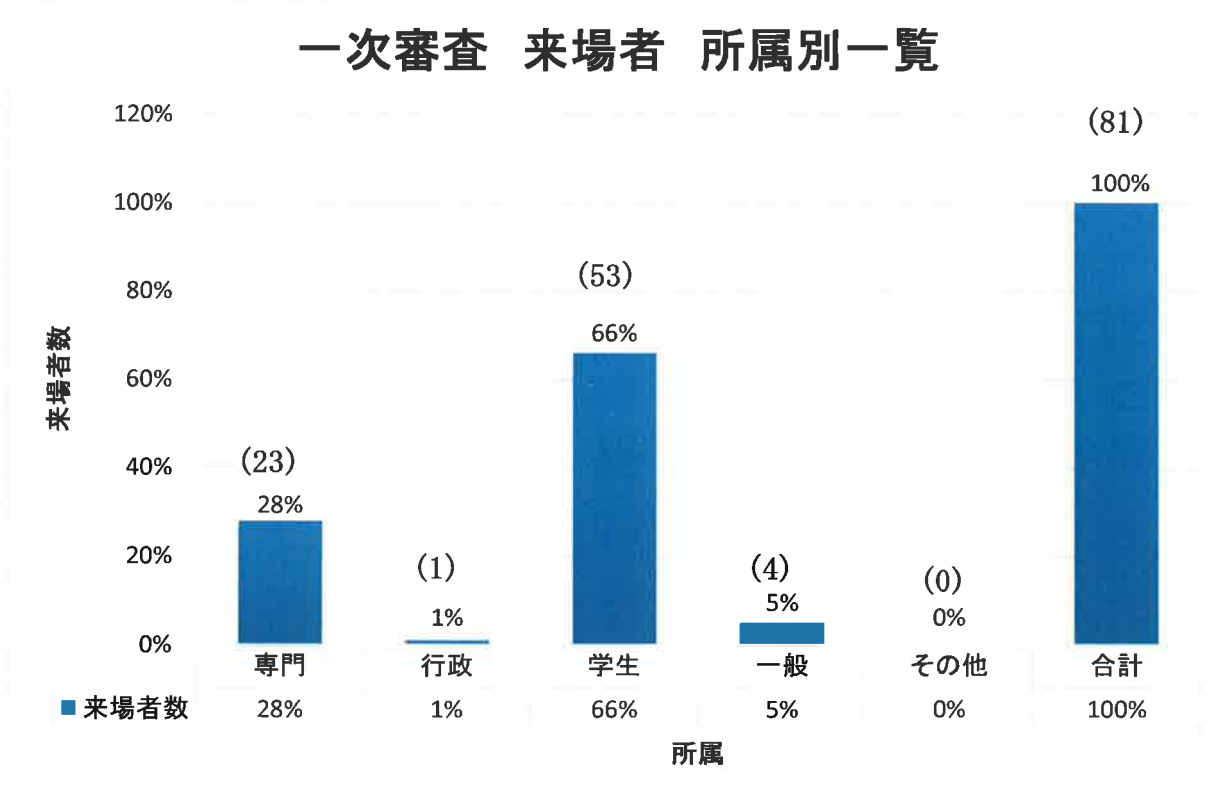


(2) 一次審査の来場者数

- ・来場者数は全 81 名だった。
- ・来場者数は学生が約 66% (53 人) と大半を占めている。
- ・来場者で所属がその他の人はいなかった。
- ・来場者数で一般の人は 5% (4 人) と県民審査・一般 24% (22 人) よりも少ない結果となった。

(図 11 参照)

図 11. 一次審査 来場者 所属別



(3) 一次審査の結果

- ・一次審査は、本来、予備審査通過 10 作品程度について予備審査通過者のプレゼンテーションを聞き、質疑応答の結果、二次審査対象作品を絞り込むことになっている。
- ・しかし、今回は、予備審査を通過した作品が、8 作品であったため、このすべてを二次審査対象作品とした。

4.5 二次審査の状況と結果

(1) 二次審査の状況

- ・選考委員は設計者の人達とそれぞれの現地で合流し、自身の作品に対しての解説を踏まえて審議を進行させた。
- ・今回の審査は最大で土佐清水市～大豊町という長距離移動を行ったため、時間的に厳しかった面があった。(写 1-8 参照)

写 1. 豊永郷民俗資料館



写 2. Tei



写 3. 対の家



写真 4. 土佐町町営住宅 舞田団地



写 5. 継ぎの家



写 6. ハイルーフの家



写 7. 中土佐町第 1 号・第 2 号津波非難タワー



写真 8. 土佐清水の教会



(2) 二次審査の結果

・二次審査は、審査員の厳正な審査の結果、下記の8作品がそれぞれの賞を受賞した。(表4参照)

表4. 二次審査 受賞作品 結果

賞	作品名	建築主	設計者	施工者
高知県 知事賞 木造文化 賞	豊永郷民俗資料館	釣井 龍宏	上田 堯世 刈谷 吉孝 株式会社 上田建築事 務所	山本 効 有限会社 勇工務店
優秀賞 県民審査 賞	中土佐町第1号・ 第2号津波非難タ ワー	池田 洋光	佐藤 八尋 小松 道就 株式会社若竹まちづくり 研究所	小川 裕司 新進建設 株式会社 中野 忠勝 中勝建設 株式会社
優秀賞	土佐清水の教会	酒井 啓介	吉田 晋 高知工科大学 システ ム工学群 梅原 佑司 梅原佑司建築事務所	沖 明治 有限会社 沖建築
優秀賞	ハイルーフの家	上田 直司	細木 淳 (株)細木建築研究所	戸田 勝士 建築工房 望
土佐薨賞	土佐町町営住宅	土佐町長	平山 昌信 有限会社 艸建築工房 東 哲也 有限会社 建築設計群 無垢	(有)早明浦建設 関西土木・早明浦建 設JV 高知県瓦屋根工事 組合+株式会社タム テック
新人賞	継ぎの家	山内 義文 山内 幸恵	桑名 平 桑名平建築研究所	品原 宏明 Shinahara 建築工房
新人賞	対の家	氏原 和哉 氏原 美紀	三宅 正浩 株式会社 y+M design office 成安造形大学	株式会社 響建設 ASJ高知スタジオ
新人賞	Tei	松本	上森 こくとう キリコ設計事務所	株式会社 響建設

5. 審査の講評

5.1 審査委員長 布野修司（建築批評家・日本大学特任教授）

知事賞（最優秀賞）は、「豊永郷民俗資料館」で文句なし。対抗は、中土佐町津波避難タワー。いずれも完成度が高い。シンプルで明快な構造。構造設計は、同じ構造設計者である。豊永郷民俗資料館は、絶好の立地にある。同じ設計者による既存建物と調和し、景観の中に新たな点を創りだしている。「肘木構法」と呼ばれるらしいが、新たな架構方式として、既に定評がある。木造架構の醍醐味を味わうことができる。葺風瓦製腰壁や金属製の目地など、伝統的な構法や地域産材を伝統的に使用する構えは全くない。むしろ、モダニズムのデザイン感覚である。ディテールも手堅い。木造建築で、全て木質で仕上げると、いささか圧迫感を感じるし、飽きも感じるが、天井の黒漆喰が効いている。

優秀賞の「中土佐町津波避難タワー」は、県民審査賞でもあるが、第一に評価すべきは、津波への建築構造的対応を十分考慮しながらシンボリックな形態にある。また、当然であるが、被災時についての十分なシミュレーションをもとに、細かな配慮がなされているのも評価できる。さらに、住民に親しまれ日常的に使われているのがいい。凡庸な津波避難タワーが各地に建てられる中で、モデルになって欲しい作品である。

優秀賞として、さらに、「土佐清水の教会」と「ハイルーフの家」を選んだ。土佐清水の教会とハイルーフの家は、いずれも40歳代で、第3回高知県建築文化賞の受賞経験者でもあるということ、優秀賞に値するかどうか議論になったが、土佐清水の教会、ハイルーフの家ともに水準の高い作品である。そして、共に、敷地を公共に開く点は高く評価できる。さらなる活躍への期待を込めて、2作品とも優秀賞とした。

木造文化賞、土佐賞に値するのは、豊永郷民族資料館、土佐町町営住宅・舞田団地である。そこで、重賞となるが、木造文化賞は、「豊永郷民族資料館」が最もふさわしいとし、「土佐町町営住宅・舞田団地」を土佐賞とすることとした。

土佐賞の土佐町町営住宅・舞田団地は、高齢者向けの公営住宅として、プログラム、千鳥配置など評価をめぐって議論はあるが、環境共生住宅のモデルとなることをめざす意欲的な作品である。

40歳以下を対象とする新人賞は、「継ぎの家」、「対の家」、「Tei」の3作品である。

継ぎの家は、建替えであるが、建替え前の住宅の記憶を様々なレベルで継承しようとするアプローチに可能性をもつ。対の家は、狭小間口で奥行の深い土地に建つ都市型住宅のプロトタイプとなりうる可能性をもつ。中庭に余裕がないのがやや気になるが、ユニークな平面構成になっている。Teiは、郊外の丘陵の傾斜地の、土佐湾を望む絶好の敷地に建つ。景観を充分享受することを意識した設計意図は明快で、屋内外をつなぐ手法に可能性をもつ。以上、それぞれの可能性に今後期待したく、今回は3作品とも新人賞とすることと判断した。

5.2 審査委員 高橋晶子（建築家・武蔵野美術大学教授）

今年は偶然にも、別の県の現地審査を本賞の審査直後に行ったため、高知の建築潮流として知られる「土佐派」の存在をあらためて感じました。勾配4寸以上の切妻瓦葺屋根。土佐漆喰の真壁とし、簡素な屋根架構をあらわす、ちょっとお堂を連想する内部。伝統的な住宅が培った事物の関係性を見据えながら現代の暮らしに繋げています。流儀として共有されながら建築家の個性も表出し、世代更新しながら発展的に継がれてゆく、土佐派のビジョンそのものに高知らしさを

感じました。

独自の解法・デザインを展開した作品群については、各々の発見的視点を評価しました。以下、入賞作品のコメントです。

■ 県知事賞（最優秀賞）・木造文化賞

「豊永郷民族資料館」は、山間の絶景を臨む常福寺に隣接して建つ2棟の木造建築。中央に独立して立つ8寸角の柱と縦横に飛ぶ貫がなんといっても印象的。空間に気合を与え上空からの光を受けヒロイックな存在となっている。民俗資料館という用途に沿いながら建築の原初的な力を発現した作品、文句なしに決まった。

■ 優秀賞

「中土佐町避難タワー」は、展望台として日常的に使われていることがまず評価された。丸いカたち（架構は8角形）は漂流物の衝撃緩和に有利で、とりつく斜路も折れ曲がりなく歩きやすい合理性をもつことが本作からよく理解できた。

「土佐清水の教会」は、日常生活に寄り添う優しい空間。日々の生活と祈りが一体化するように、ドラマチックな造形を避けシンプルな方形屋根の架構を露した内部は、ハイサイドからの間接光にデリケートに呼応し、建具の選別によって現象の質が変化する。庭のような駐車場も美しい。

「ハイルーフの家」は、良好な環境に伸びやかに建つ住宅。4m弱の車庫の屋根を細い鉄骨柱で軽やかに浮かせた表情が印象的である。街並景観にゆとりを感じるのはもちろん、多様な有効活用ができそうだと思う。

■ 土佐賞

「土佐町町営住宅・舞田団地」は、各住戸を千鳥配置したことでできた路地空間が新鮮。住戸同士の軒を繋ぐ横架材が領域性を強めている。陽当り優先の平行配置に対し千鳥配置は斜め方向に視線が抜け奥行き感が増す。

■ 新人賞

「継ぎの家」は、かたちに知性が宿り説得力がある住宅である。周辺に残る歴史的環境との関連、南側の山に向かう敷地、気候、住まい手の生活などを丁寧に受け止めながら統合化された結果、美しいプロポーションと細部の納まりを備えた作品に仕上がった。

「対の家」は、間口6mを細長く3分割して中庭（空を見る額縁）をとり、ボリュームは二連の家型とする構成。密集住宅地にあつて視線、陽光・明るさ、風、圧迫感などの調停の仕方が個性的表現につながっている。

「Tei」は、海の絶景を臨む高台に建つ住宅。景色がよいと一般にどこも開放的になりがちだが、この作品は1万冊の書庫が内向する場となり、読書デッキがことさら印象深い場所と感じられる。

5.3 審査委員 渡辺菊眞（建築家・高知工科大学准教授）

一昨年に引き続き、二度目の審査となるが、今回の要項（審査基準も）には「地域性、歴史性、文化性」を建築にて表現することが重要だと明記され、その上で新たな可能性をいかに切り開くかも問われていた。いまや日本全国に数多くある地域の建築賞ではあるが、この手の賞が中央の単なる劣化版や植民地化に堕さないためにも、このような指針や評価基準は極めて重要なことだと思う（それをどう評価するか、それがパターン化しないかなど、審査の目が強く問われるのだが）。備忘録を兼ねて、まずは、このことを記させていただいた。以下には受賞作品に

ついて簡単なコメントを付したい。

■ 県知事賞（最優秀賞）・木造文化賞

「豊永郷民俗資料館」は、山岳寺院の一面の秘境的な絶景が開ける場所に建つ。その秘境性を、中央の力強い木組みが形成する吹き抜け空間に結晶させたかのような建築である。上田建築事務所の「お家芸」ともいえる大仏様（重源がものした様式のこと、天竺様ともいう）から着想を得た豪快な木組みが、建物の心臓部を形成し、民族資料館という機能と空間に完全にマッチしている。まさに横綱が横綱相撲をとったといえる建築だ。現在展示準備中ではあるが、展示中の様態が見られなかったのが心残りである。

■ 優秀賞

「中土佐町避難タワー」は、即物的な避難タワーではなく、町のシンボルとして、平常時から展望台として使われる様態として、さらには（当たり前だが）津波荷重をより受け流すカタチとして計画されたことが重要である。今後も無機的に量産を続ける避難タワーを啓蒙する存在として評価したい。「土佐清水の教会」は、教義にならい、「家庭的で開かれた」存在としての教会が目指されており、それが具現化している。強すぎない求心性、それを包む緑地。町のスケールとの親和性。この、およそ宗教的劇性がないことが、ここでは大切なのだ。信者の要望から、教会の床に暖かみあるフローリングが設置されていたが、そんな家庭的な一コマもこの教会の魅力であろう。「ハイルーフの家」は、広大な新興住宅地の一面。そこの比較的大きな宅地割りの中に伸びやかに建つ。南面の庭と傾斜する一枚屋根の少し縮こまったスケール感。それに対して前面道路側に伸びるハイルーフの浮遊感。そのバランスが心地いい。

■ 土佐薨賞

「土佐町町営住宅・舞田団地」は千鳥配置の群としての風景形成に、この手の計画のプロトタイプの可能性を感じた。低い屋根が千鳥に連なり瓦の「まちなみ」をつくる。薨賞の由縁である。桁をつなぐことで生じるゲートつきの路地にも可能性を感じた。

■ 新人賞

「継の家」は、条件の悪い立地ながら、その特質を丁寧に読み解き、極めて落ち着いた心休まる建築をつくりあげている。おそらくは増築だらけの前身建物に、この計画の平面的ヒントがあったに違いない。新人とは思えない「老成」した細部は今後が楽しみでもあり不安でもある。独自の表現昇華に期待したい。「対の家」は、何らよるべきところのない新興住宅地の一面にある建物。しかも間口が狭く奥行きが深い。前面道路に対してはスクリーンとなる壁で、閉じた落ち着いた空間を確保し、後方の空間は中央背骨にガラススクリーンにつつまれた中庭をとり、回遊空間としている。こういった立地における新たな型を予感させる家である。「Tei」は、絶好のロケーションにたち、それに反応した瀟洒な作品。「海がきれい」、それにつきてしまう部分もある。平面構成、断面構成の練り上げに今後は期待したい。

6. 授賞式・記念講演会・授賞作品展の状況

6.1 授賞式の状況

- ・授賞式は、はじめに高知県建築文化賞実行委員会の委員長で、高知県建築士事務協会の会長・西森敬祐さんの開会の挨拶から始まった。
- ・次に、賞状及び記念品等の贈呈は、高知県知事の所用により代理として高知県建築文化賞実行委員会の委員であり、高知県土木部建築指導課長補佐兼チーフの益井博史さんにより行われた。
- ・その後、授賞者による作品紹介が行われた。
- ・最後に高知県建築文化賞実行委員会委員で、高知県建築士協会会長の依光成元さんにより、閉会の挨拶が行われた。

(写1-3参照)

写1. 会場全体の様子・開会の挨拶



写3. 授賞者 作品紹介



写2. 賞状の贈呈



6.2 記念講演会の状況

- ・「建築と風土」と題し、高知工科大学准教授渡辺菊眞先生により講演が行われた。
(写1, 2 参照)

写1. 講演の様子



写2. 質疑応答



6.3 授賞作品展の状況

- ・会場は「高知こどもの図書館」にて行われた。
- ・来場者数は名簿を確認する限りでは専門家の人は少数で、一般の人が多かった。
- (写1, 2 参照)

写1. 会場・南側



写2. 会場・北側



7. 高知県建築文化賞の予算及決算

7.1 予算

■ 収入の部

項目	小項目	金額	備考
会費	2014 年度繰越	54,9583	
	高知県建築士会	300,000	
	高知県建築士事務所協会	300,000	
	日本建築家協会四国支部高知地域会	300,000	
	日本建築学会四国支部高知支所	50,000	
	高知工科大学システム工学群社会教室	250,000	
協賛金	高知県瓦工事業組合等	140,000	
	計	1,394,583	

■ 支出の部

項目	小項目	金額	備考
広告費	ポスターチラシ等	50,000	
	募集要項印刷等	20,000	
審査費	会場代	20,000	
	審査員謝礼・交通費	300,000	審査員食事代等を含む
	現地審査車代等	50,000	
賞・記念品費	副賞・記念品	150,000	
	賞状	40,000	
展覧会・表彰式費	会場代	50,000	
	設営費等	150,000	
記念フォーラム費	会場代	10,000	
	講師謝礼・交通費	230,000	講師食事代等を含む
	司会者謝礼	10,000	
運営費	郵送代	30,000	
	印刷費	20,000	
	アルバイト代	180,000	
	雑費	20,000	
作品選集応募料		50,000	
予備費		14,583	
計		1,394,583	

7.2 決算報告（2016年1月31日現在）

■ 収入の部

項目	金額	内 訳
会費	1,200,000	・ 高知県建築士会 300,000 ・ 高知県建築士事務所協会 300,000 ・ 日本建築家協会四国支部高知地域会 300,000 ・ 日本建築学会四国支部高知支所 50,000 ・ 高知工科大学システム工学群社会教室 250,000
協賛金	140,000	・ 高知県瓦屋根組合 50,000 ・ 愛知県陶器瓦組合 30,000 ・ 石州瓦工業組合 30,000 ・ 淡路瓦工業組合 30,000
寄付金	10,000	・ 村山瓦様より 10,000
雑収入	85,000	・ 懇親会費
受取利息	41	・ 預金利息
計	1,435,041	

■ 支出の部

項目	金額	内 訳
広告費	56,138	・ ポスター印刷
審査費	443,770	・ 審査員謝礼・交通費 3人 220,000 ・ 審査員・事務局宿泊代 40,380 ・ 会場費 15,120 ・ 食事代 79,390 ・ 現地審査車代 88,880
賞・記念品費	448,609	・ 記念品代（エコアス馬路村） 226,800 ・ 記念品代（石州瓦） 194,400 ・ 賞状・証書ホルダー・記章バラ 27,409
展覧会・表彰式、記念フォーラム費	347,680	・ 審査委員長・講演者交通費 2人 110,000 ・ 会場費・懇親会費 237,680
運営費	170,506	・ 切手代・郵送代・消耗品・P代等 33,206 ・ アルバイト代 137,300
支払手数料	2,808	・ 振込料
雑費	540	・ 残高証明
計	1,470,051	

■ 決算の部

収支差額	-35,010	・ 収入（1,435,041）－支出（1,470,051）
前期繰り越し	54,583	
差引残	19,573	

資料編

1. 第4回 高知県建築文化賞応募募要項

■ 開催趣旨

高知県建築文化賞は、高知県内に竣工された建築物で、高知県の地域と環境に根ざした優れた作品に対して、その功績をたたえ、表彰することを目的とします。その対象者は、建築主・設計者・施工者です。

高知県建築文化賞は、以下の特徴があります。

◎高知県内唯一の総合的・専門的な建築作品賞

対象は、高知県内に竣工した建築作品で、社会的、文化的見地から極めて高い水準が認められる優れた作品を対象とし、最優秀作品には高知県知事賞が贈られます。

◎個性的で多様な賞

高知県知事賞以外にも、木造文化賞、土佐薨（いらか）賞、優秀賞を設けています。

◎若い建築家にチャンス

前回（第3回）から40歳以下の設計者・施工者を顕彰する新人賞を設けました。

◎県民審査賞を創設

また、今回（第4回）から新たに県民審査賞を設けました。

◎誰でも自由に応募

応募は、建築主・設計者・施工者であれば、誰でも自由に参加できます。

◎審査は公開され、誰もが審査員

審査は、①県民審査、②予備審査、③一次審査、④二次審査の4段階で行います。県民審査は、県民審査会場に応募作品を展示し、一般入場者の投票により審査します。予備審査は、県民審査の結果と中立的に組織した審査委員会が一次審査対象作品を選出します。一次審査は、公開で行います。予備審査を通過した作品を提出者がプレゼンテーションを行い、審査員が審査します。また、二次審査では、審査委員会が現地審査を行い、最終的に各賞を決定します。

■ 表彰賞

建築主・設計者・施工者（土佐薨賞の場合は瓦施工者）の各々に表彰状を授与します。

◎高知県知事賞（最優秀賞）×1作品……………賞状、記念品
（高知県の建築文化に貢献した最も優れた作品）

◎優秀賞×1～3作品……………賞状、記念品
（上記、最優秀賞には選出されなかったが、高知県の建築文化に貢献した優れた作品）

◎木造文化賞×1作品……………賞状、記念品
（木造建築物で高知県の建築文化に貢献した最も優れた作品）

◎土佐薨（いらか）賞×1作品……………賞状、記念品
（国内産の粘土瓦を屋根等に使用し、高知県の建築文化に貢献した優れた作品）

◎新人賞×1作品……………賞状、記念品
（40歳以下の設計者・施工者が設計・施工し、高知県の建築文化に貢献した優れた作品）

◎県民審査賞×1作品……………賞状、記念品
（県民審査によって1位に選出された作品）

*重複受賞あり（高知県知事賞で木造文化賞、高知県知事賞で新人賞、木造文化賞で土佐薨（いらか）賞、木造文

化賞で県民審査賞、等々)

■ 審査

審査は、審査委員会を組織し、審査委員は、建築家等数名とし、そのうち 1 名を委員長とします。

審査委員は下記のとおり。

委員長 布野 修司 建築批評家・日本大学特任教授・滋賀県立大学名誉教授
委員 高橋 晶子 建築家・武蔵野美術大学教授
渡辺 菊真 建築家・高知工科大学准教授

■ 審査の視点

高知県建築文化賞は、下記の諸点において高い水準をもつ作品に贈られます。特に、(1)を重視します。そのウエイトは、概ね下記のとおりです。

- (1) 高知の社会性、歴史性、文化性から見た地域環境への適合性 (40 点)
- (2) 新たな建築の可能性を示唆するもの (20 点)
- (3) 地球環境保全に対する配慮及び建築物のライフサイクルに対する取り組み (20 点)
- (4) 外部空間、内部空間の両面における独創的なデザイン性 (10 点)
- (5) 計画、構造、環境・設備および材料・工法技術に関する設計の論理性 (10 点)

■ 審査の方法

審査は、①県民審査、②予備審査、③一次審査、④二次審査の 4 段階にて行います。

- (1) 県民審査は、審査会場に応募作品（提出されたパネル）が展示され、一般入場者の一人一人が良いと思われる作品を 1 位から 3 位まで順位を付けて投票します。1 位には、3 点、2 位には、2 点、3 位には 1 点のウエイト付けがなされ、総得点の多かった 1 位から 3 位までの作品は、一次審査対象作品となります。また、1 位となった作品には、県民審査賞を授与されます。
- (2) 予備審査は、提出された全作品の中から審査員が協議の上、10 作品程度（上記の 3 作品を含む）を選出します。
- (3) 一次審査は、10 作品程度の予備審査通過者によるプレゼンテーション（各自 5 分程度）を公開で実施し、そこから審査委員会が二次審査対象作品を絞り込みます。この一次審査過程も公開します。
- (4) 二次審査は、審査委員会による現地審査を含み、公平・厳正な審査を行い、高知県知事賞等の各賞を決定します。

注 1：「予備審査」通過者には、予め 7～10 日前までに連絡しますが、一次審査で行うプレゼンテーション（各自 5 分程度）用のデータ（Power Point、フォント等に制限あり）の準備が必要。

注 2：「一次審査」通過の方は、翌日、審査委員による現地審査を行うので、事前に建築主の了解を得ておくこと（建物内に入る内部審査あり）や広報活動等のため、追加資料の提出が必要となることもある。

■ 応募資格・応募対象・応募件数

対象建築物の建築主・設計者・施工者であれば誰でも応募が可能です。また、応募対象は、2012 年 9 月 1 日から 2015 年 8 月 31 日までに竣工した建築作品（過去 3 年間とする）で、建

築場所が高知県内であることとし、建築規模・用途は問いません。応募件数は、複数点の応募が可能です（制限なし）。

また、新人賞対象者は、設計者が応募終了時（2015 年 9 月 15 日）において 40 歳以下であることとします。

■ 応募料

無料です。

■ 応募期間

2015 年 9 月 7 日（月）～9 月 15 日（火）15：00 まで（必着のこと）

■ 応募書類

応募書類は、県民審査、予備審査用として、以下の 3 点を応募期日までに本実行委員会に提出してください。

- (1)「建築作品応募申込書」は、日本建築学会四国支部のホームページバナー〈高知県建築文化賞〉からダウンロードのこと。
- (2)A3 判（ヨコ仕様）5mm 厚のスチレン又は CP ボード×1 枚に、設計主旨・図面・写真等の内容を適宜まとめて記載のこと。ただし、提出者が特定できる記載（氏名、所属等）は入れてはならない（これらが記載されている場合は、失格とする）。
- (3)完了検査済証の写し、または、それに準ずるものを添付のこと。

■ 提出先

応募書類の提出先は、下記のとおりです。

〒782-0003 高知県香美市土佐山田町宮ノ口 185 ☎0887-57-2363

高知工科大学地域連携棟 201 NP0 法人 高知まちづくり支援ネットワーク内

高知県建築文化賞実行委員会

メールアドレス shiennet@kochi-tech.ac.jp

■ 著作権等について

著作権等については、下記のとおりです。

- (1)雑誌等に掲載する場合は、著作権は応募者に帰属し、本実行委員会は編集出版権をもつ。
- (2)複写権、翻訳権を本実行委員会に委託するものとする。
- (3)受賞作品を共催団体運営のホームページにて公開できる。
- (4)著作権の侵害等の問題は、応募者がすべて責任を負う。
- (5)応募書類の返却はしない。
- (6)著作権・工業所有権を侵害すると判断されたものは、選考対象から除外する。

■ 審査等スケジュール

審査等のスケジュールは、下記のとおりです。

- | | | |
|----------------|------------------------------|-------------|
| (1) 県民審査及び結果発表 | 日時／2015 年 10 月 3 日（土） | 14:00～16:30 |
| | 審査（投票）：14：00～15：30、開票：15：30～ | |

- | | |
|--------------------------|---------------------------------------|
| | 会場／高知県立県民文化ホール 1 階第 11 多目的室 |
| (3) 予備審査 | 日時／2015 年 10 月 4 日（日）～10 月 10 日（土） |
| (4) 予備審査結果発表 | 日時／2015 年 10 月 13 日（火）（HP にて 9:00 予定） |
| (5) 一次審査（公開） | 日時／2015 年 10 月 24 日（土） 13:30～16:30 |
| | 会場／高知県立県民文化ホール 4 階第 6 多目的室 |
| (6) 二次審査（審査委員による現地審査を含む） | 日時／2015 年 10 月 25 日（日） 9:00～17:00 |
| | 2015 年 10 月 26 日（月） 予備日 |
| (7) 最終結果発表 | 日時／2015 年 10 月 27 日（火）（HP にて 9:00 予定） |

■ 表彰式・記念講演会・受賞作品展

表彰式、記念講演会、受賞作品展は下記の日程で開催します。

- | | |
|-----------------|--|
| (1) 表彰式 | 日時／2015 年 11 月 14 日（土） 13:30～15:00
会場／高知共済会館 3 階「藤」
受賞者の受賞作品の発表を含む |
| (2) 記念講演会 | 日時／2015 年 11 月 14 日（土） 15:15～16:45
会場／高知共済会館 3 階「藤」
講演テーマ：「建築と風土（仮題）」
講師：渡辺 菊真（建築家・高知工科大学准教授） |
| (3) 懇親会 | 日時／2015 年 11 月 14 日（土） 17:00～19:00
会場／高知共済会館 4 階「浜木綿」
会費：5,000 円 |
| (4) 受賞作品展〈入場無料〉 | 日時／2015 年 11 月 11 日（水）～16 日（月）（予定）
10:00～17:00
会場／高知こどもの図書館
入場無料 |

■ 主催・協賛・後援団体

●**主 催**／高知県建築文化賞実行委員会（高知県公立大学法人 高知工科大学、一般社団法人 日本建築学会四国支部高知支所、公益社団法人 高知県建築士会、一般社団法人 高知県建築士事務所協会、公益社団法人 日本建築家協会高知地域会）

●**協 賛**／愛知県陶器瓦工業組合、淡路瓦工業組合、石州瓦工業組合、高知県瓦屋根工事業組合

●**後 援（予定）**／高知県、高知県教育委員会、高知市、高知市教育委員会、（社）高知県建設業協会建築部会、高知新聞社、NHK 高知放送局、RKC 高知放送、KUTV テレビ高知、KSS さんさんテレビ、エフエム高知、（株）建通新聞社高知支局、高知工業高等専門学校、国際デザイン・ビューティカレッジ、森の情報館・エコアス馬路村、木と人・出会い館、土佐派の家ネットワークス、認定 NPO 法人高知こどもの図書館、NPO 法人高知まちづくり支援ネットワーク

2. 高知県後援申請書（見本の紹介）

平成 27 年 6 月 18 日

高知県知事 尾崎 正直 様

高知県建築文化賞実行委員会

委員長 西 森 敬 祐

第 4 回「高知県建築文化賞」開催に伴う後援のお願い

梅雨の候、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、当実行委員会では、高知県の建築設計者のレベルアップと優れた建築デザインの普及及び建築文化の啓蒙活動を目的とし、より多くの人々に参加、応募を求め建築の文化性を一般の方々にも理解していただきたいと考え、高知県建築文化賞を創設し、平成 21 年度の第 1 回「高知県建築文化賞」、平成 22 年度の第 2 回「高知県建築文化賞」、平成 25 年度の第 3 回「高知県建築文化賞」を成功裏に終えることが出来ました。

つきましては、第 3 回に引続き本年度実施予定の第 4 回「高知県建築文化賞」に関する催事すべて「建築作品応募、審査、表彰式、記念講演会、受賞作品展」に後援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

3. 高知県建築文化賞チラシ

第4回高知県建築文化賞(2015年度)応募要項《概要》

[illegible]

具 賞
知 築 化
高 建 文

第4回 作品応募期間
2015年8月7日～9月15日

[illegible][illegible]

4. 第4回高知県建築文化賞 申込書

建築作品応募申込書

応募年 月日	平成 27 年 月 日
-----------	-----------------------

●応募者(連絡先及び採否)

通知先)

氏 名(ふりがな)	連 絡 先 (所属部署まで)
	〒 〇〇〇〇 〇〇市
	TEL.() - FAX.() -
	メールアドレス:

●受賞対象者

主たる賞対象者		所属（勤務先）	所属団体
ふりがな			
建築主			
ふりがな			
設計者	（年齢）		
ふりがな			
設計者	（年齢）		
ふりがな			
施工者			
ふりがな			
施工者			

●応募作品

ふりがな			
名 称			
所在地			
用 途		竣工年月	年 月
階 数	・地 上 () 階	・地 下 () 階	・屋 上 () 階
面 積	・敷地面積 () m ²	・建築面積 () m ²	・延床面積 () m ²
構 造			

※応募作品情報等は、高知県建築文化賞実行委員会が行う受賞作品展や2013年度活動報告書等に使用させていただきますが、その他には一切使用致しません。

(別紙詳細参照／著作権及び応募書類についての項)

※注1／「予備審査」通過の方は、一次審査で行うプレゼンテーション(各自5分程度)用のデータ(Power Point、フォント等に制限あり)が必要です。

※注2／「一次審査」通過の方は、選考委員会による現地審査を一次審査の翌日実施しますので、事前に建築主の了解を得ておいて下さい。(建物内に入る内部審査あり)

※注3／入賞された方は、受賞作品展や広報活動等のため、追加資料の提出が必要です。

※注4／設計者の年齢は、応募申込書提出日時の年齢を記入してください。

高知県建築文化賞実行

委員会

〒782-0003 高知県香美市土佐山田町宮

ノ口185

高知工科大学地域連携棟 201 NPO 法人高知まちづくり支援ネットワーク内 高知県建築文化賞実行委員会

☎0887-57- メールアドレス shiennet@kochi-
2363 tech.ac.jp

5. 第4回高知県建築文化賞 全パネル

(1) 豊永郷民俗資料館



(2) Tei



(3) THE・高知の家



THE・高知の家

～無理をしないで高知らしい暮らし～

所在地 高知市番町
主用途 専用住宅
階数 2階建
敷地面積 183.08㎡ (55.38坪)
延床面積 101.08㎡ (30.58坪)
構造 木造



高知で、高知の材料を用いた、自然を感じる事のできる、高知らしい暮らし。こだわりの暮らしを、確立しやすい家にする。外観は土佐漆喰を塗り、茅葺きを再現したい。木材は高知産の無垢材の美しいもの。家具は十分な収納力とデザインを兼ねたもの。茅葺きには豊かな植物の理想、すべて実現させるとは、高知らしい暮らし。結果住む人間を選んでしまう。

この住宅に用いている木材は全て高知産の無垢材。深い軒を確保し、外観的に一部土佐漆喰を使用し、職人の手作業の建物である。深窓構造を再現し、茅葺きを再現したい。木材は高知産の無垢材の美しいもの。家具は十分な収納力とデザインを兼ねたもの。茅葺きには豊かな植物の理想、すべて実現させるとは、高知らしい暮らし。結果住む人間を選んでしまう。

この住宅に用いている木材は全て高知産の無垢材。深い軒を確保し、外観的に一部土佐漆喰を使用し、職人の手作業の建物である。深窓構造を再現し、茅葺きを再現したい。木材は高知産の無垢材の美しいもの。家具は十分な収納力とデザインを兼ねたもの。茅葺きには豊かな植物の理想、すべて実現させるとは、高知らしい暮らし。結果住む人間を選んでしまう。



(4) M 様邸 戸建て住宅



M 様邸 戸建て住宅

平成25年9月竣工

三州産の陶器平板瓦を使用。

袖部の仕様を一体式に施工し、平部(棧瓦)の仕上がりラインと同じく仕上げています。

棟瓦は三角様を使用。高さを揃え、平部と一体化した納まりとなり、建物の印象をよりシャープなものにしています。



3

4

(5) 対の家



(6) 土佐町町営住宅 舞田団地



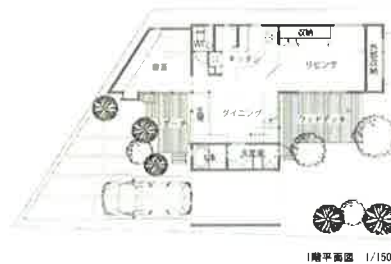
(7) 継ぎの家



(8) 風の抜ける家



所在地	高知縣高知市
用途	專用住宅
規模	2層建て
敷地面積	199.14m ² (60.24坪)
延床面積	116.48m ² (32.23坪)
2F	38.10m ² (11.52坪)
1F	78.38m ² (23.71坪)
構造	木造



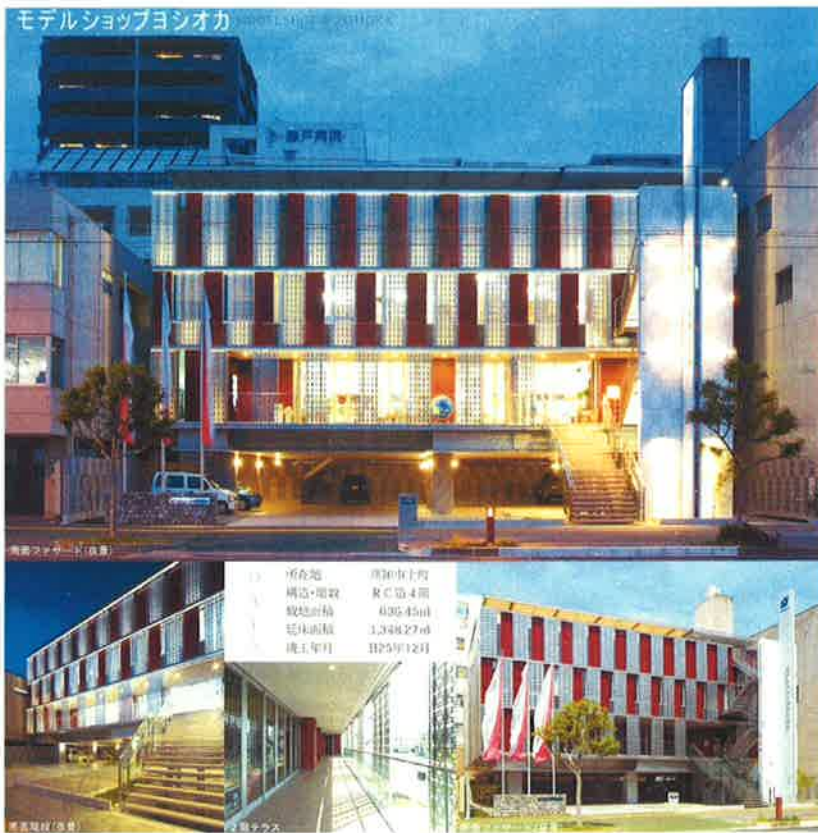
夫婦+子ども2人の4人家族のための住宅

敷地を見に行った時に驚いた。雪が西へ傾ける坂を最大限取り入れられるよう計画しました。階段・土庫を取り入れたため、オープンスペースを考えるとこのように留めておくことで、既存の室内空間をつくり出すことになりました。また、庭に遊びたいと願った住人とはすこしずつと心を合わせました。外壁には、暖色の山や緑豊かな大自然が自然な環境を手がかり、移住先地を象徴する杉材を使用しました。

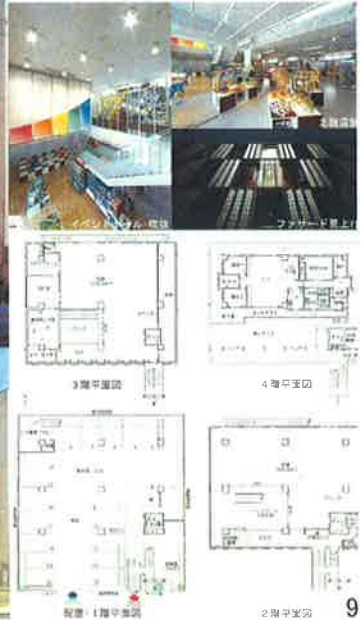
内側は、暖仕切りを少なくし、全体的暖房はフルコンに近似的なものとなりました。また、吊钩による内灯の光が足りなくないようにしたい。そうすることで、内と外、内と内、上と下が視覚的にも環境的にもつながっていくように計画しました。



(9) モデルショップヨシオカ



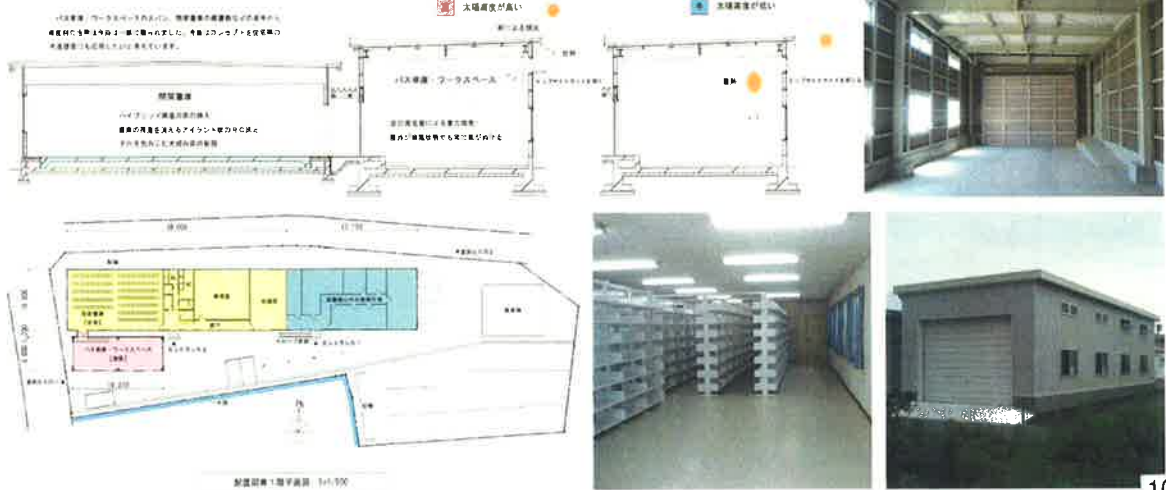
50年の歴史がある高知市には有名な店舗であり、最新の技術を惜しみなく投入した建物の再生に挑戦する。この建物の再生は、その歴史を大切にし、その魅力を最大限に引き出すことが目的である。この建物の再生は、その歴史を大切にし、その魅力を最大限に引き出すことが目的である。この建物の再生は、その歴史を大切にし、その魅力を最大限に引き出すことが目的である。



(10) 移動図書館—プレハブ建築の再生と呼吸する箱



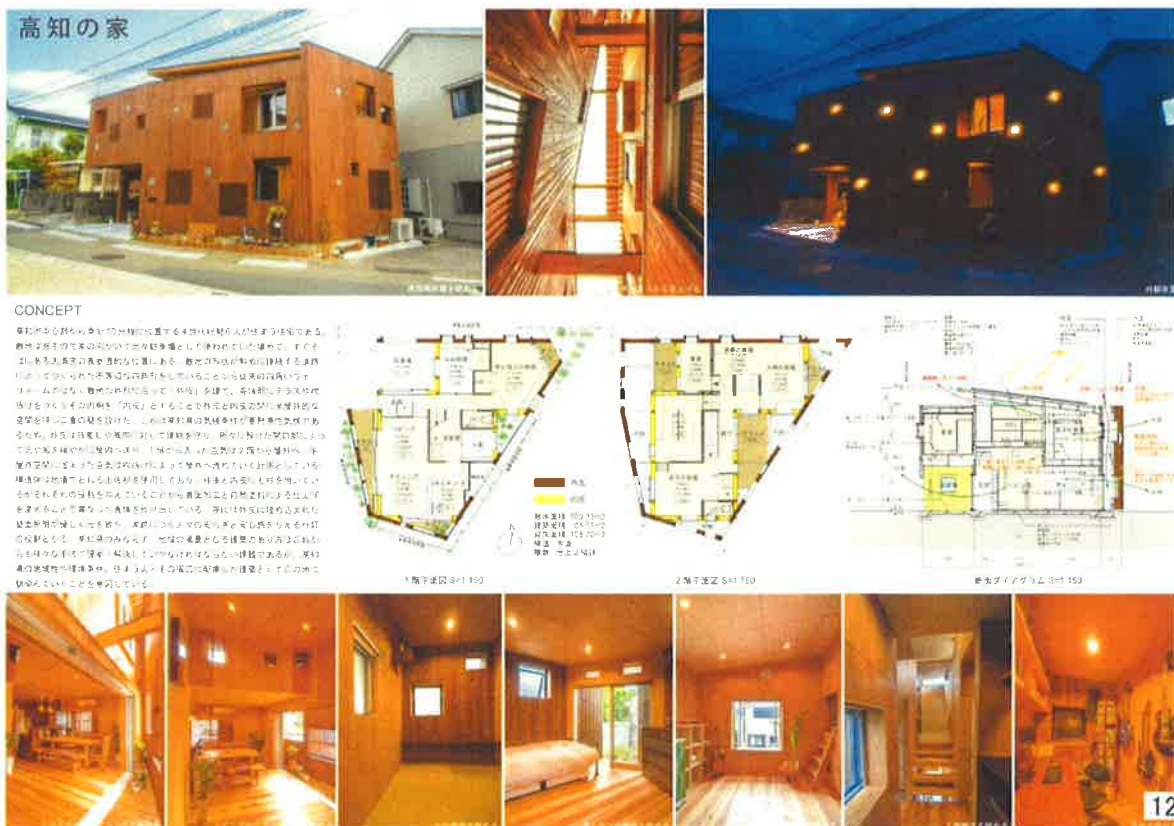
移動図書館—プレハブ建築の再生と呼吸する箱



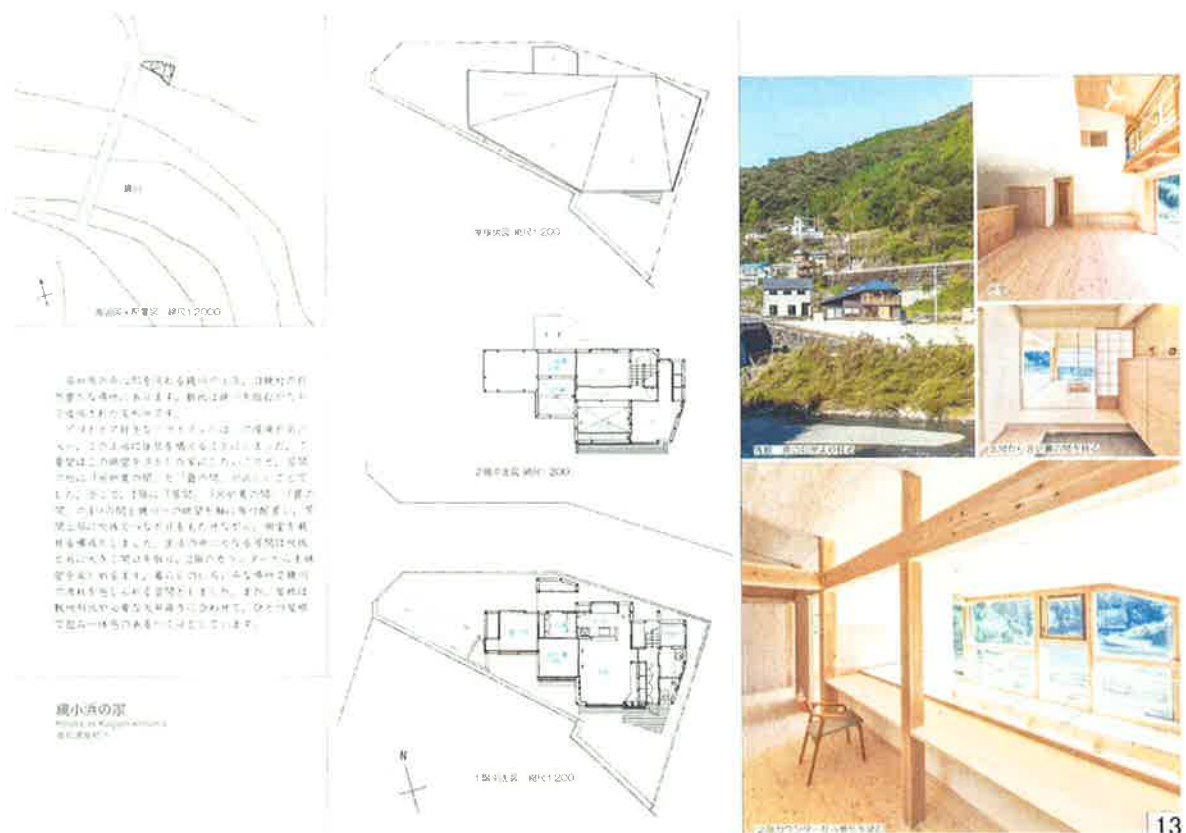
(11) 南ヶ丘ベンガラの家



(12) 高知の家



(13) 鏡小浜の家



(14) ハイルーフの家



(15) 牧野富太郎ふるさと館（資料館）



牧野富太郎ふるさと館（資料館）

高岡郡佐川町出身で、日本を代表する植物学者 牧野富太郎博士の生家を
残存する写真を元に資料館として復元。

県内産の屋根材で仕上げ、平部は左棧瓦を使用。軒瓦は鎌軒瓦を使用して施工。
棟のし部は青海波積みで納め、風格を感じさせる仕上がりとなっている。

建築場所：高知県高岡郡佐川町甲1485
平成25年4月23日 竣工



15

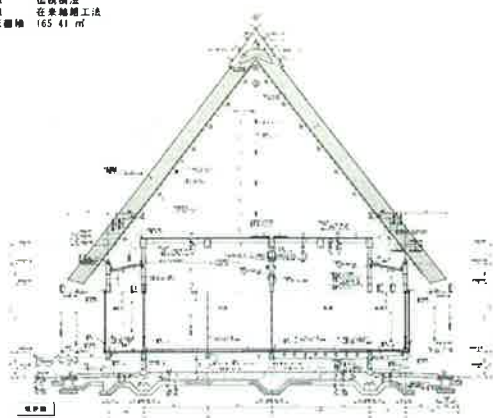
(16) 中土佐町第1号・第2号津波避難タワー



(17) 文化的景観ガイダンス施設「吉村虎太郎生家」

文化的景観ガイダンス施設「吉村虎太郎生家」

木道	早置屋	主棟 別棟 陸床欄柵	伝統技法 在来軸組工法 165.41 m ²
----	-----	------------------	---

[illegible]

雑誌誌に書き置かれたスエノチ

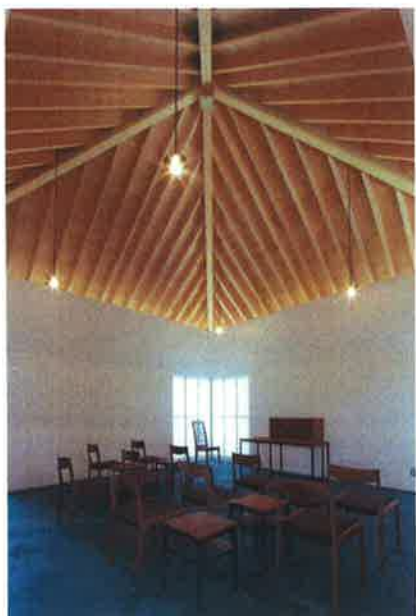
[illegible]

賞賜に値えられた半通銀



17

(18) 土佐清水の教会



土佐清水の教会

■ 地味な買収と新

[illegible]

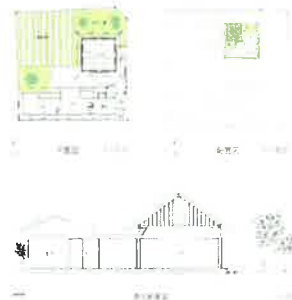
圖 2-1-1 公理

[illegible]

藤田の関心は、土地の生産性

※往復は一回の三才を卒業、四曜の朝の顔を配置、サ、射、で開く「アケ」できる
各曜に配した「うんぬん」の物語を講じた。これらによって展開された「うんぬん」が、大井の
大井院に登場を与えている。

圖 1 遊動の模式図

[illegible]

18

6. 県民審査の投票説明書

第4回 高知県建築文化賞

県民審査の方法等について

■ 投票について

- 18 作品の中から 1 位～3 位を決めてください。
- その後、入り口付近にある投票箱に投票してください。
- 作品番号が書いてある投票箱がありますので、選んだ作品番号の箱に入れてください。
- ひとつの作品に一枚の投票用紙を入れてください。
- また、間違えないよう、お願いします。

■ 点数について

- 順位によって、下記のような得点として集計します。
1 位・・・3 点 2 位・・・2 点 3 位・・・1 点

■ 開票について

- 開票は、15：30 から予定しています。
- 1 位になった作品には、県民審査賞が授与されます。
- 上位 3 作品は、一次審査対象作品となります。

■ 注意事項

- 重複して投票することはできません。

■ スケジュール

	時間	内容
投票	14：00～ 15：30	県民審査会場に展示し、すべての応募作品を一般入場者が審査（投票）する。
開票	15：30～ 16：30	県民審査で行われた投票の結果を公開開票し、1 位には県民審査賞が送られる。 また、上位 3 作品は一次審査対象作品となる。

よろしくお願いします。

7. 第4回高知県建築文化賞 賞状（見本）

2015年度 高知県建築文化賞

優秀賞

AWARD OF EXCELLENCE

作品名

様

あなたの応募作品は高知県建築文化賞審査委員会
において選考の結果頭書の成績をおさめられたの
でこれを賞します

2015年11月14日

高知県建築文化賞審査委員会

委員長 **布野修司**

8. 第4回高知県建築文化賞 記念品



9. 高知新聞に掲載された記事

【高知】地域を活性化させるための建築物を表彰する「第4回県建築文化賞」で、豊永郷民俗資料館が「豊永郷民俗資料館」が選ばれる。同館は同町内の定福寺境内にあり、同町長吉形昭彦文化財を保存する「約1万2千坪を保存。NPO法人「豊永郷民俗資料館」が運営している。

県建築文化賞 最優秀に豊永郷資料館(町)

1973年に完成した以前の建物は老朽化していたため、昨夏に建て替えに着手し、今年9月に完成した。同町の町長吉形昭彦文化財を保存する「約1万2千坪を保存。NPO法人「豊永郷民俗資料館」が運営している。

新しい建物は、県産材をふんだんに使った大盛2階建てで、一つの棟が内部でつながっている。館内の中央部分は吹き抜けになっており、4本の通し柱を何本もの間(ま)

洗練された木組み評価

中央は吹き抜けで天窓から差し込む光が降り注ぐ。いずれも大盛町長が中心。

きや財不(ひき)がや、茶畑など周囲の風景の文化賞」にも選ばれて交錯する木組みが特徴と評価されている。同館は6月中旬、同町長吉形昭彦文化財を保存する「約1万2千坪を保存。NPO法人「豊永郷民俗資料館」が運営している。

定福寺の境内に立つ豊永郷民俗資料館

半から高知市不明(不明)の通り。同町長吉形昭彦文化財を保存する「約1万2千坪を保存。NPO法人「豊永郷民俗資料館」が運営している。

高知新聞(朝刊) 2015年11月14日(土) 25面